

初台リハビリテーション病院

2階訓練室のレイアウト変更中です

新年明けましておめでとうございます。
 昨年より2階の訓練室エリアのレイアウト変更を少しずつ進めております。患者さま・ご利用者さまの動線を考慮しマシン類やテーブル、パソコン等を移動しています。今後、皆さまがご利用しやすい環境を整えて参りますので、お気づきの点がございましたらお気軽にスタッフまたは外来チームマネージャーまでお声かけください。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



船橋市立リハビリテーション病院

避難訓練を行いました

定期的実施している避難訓練を実施しました。万が一の事態に備え常に緊急時の動き方を訓練しておくことは重要です。今回は夜間帯のスタッフが少なく中で火災が発生したら、という状況を想定し訓練を行いました。実際に患者さま役のスタッフを避難させたり、院内に警報を鳴らしたりとリアルな雰囲気の中行い、非常時の状況を訓練で体験できてよかった、という声を多数聞くことができました。何も起きないことが一番良いですが、今後も訓練を実施し対応がスムーズにできるように努めて参ります。



船橋市リハビリセンター

第27回 船橋市地域リハビリテーション地区勉強会 開催

11月19日(月) 船橋市中央公民館6階講堂にて第27回 船橋市地域リハビリテーション地区勉強会が開催されました。講師に船橋中央病院 医師 山下正臣氏をお招きし「繰り返す骨折を防ぎながら本人の望む生活を実現するために多職種でできること」というテーマでご講演いただきました。100名程の方が参加され、「骨折、骨粗鬆症の知識が深まった」「多職種の方と色々な場面での意見交換ができて勉強になった」との声が多数寄せられ、大盛況でした。



在宅総合ケアセンター元浅草

たいとう心身会10周年記念懇親会が行なわれました

たいとう心身会(患者会)は2018年7月で発足10周年を迎えました。
 10周年を記念し、去る9月30日(日)にホテル機山館で懇親会を行ない、ご利用者さま・ご家族さま、職員あわせて69名が参加しました。
 心身会会長・役員の方々のスピーチ、楽器・歌の演奏、石川会長のプチ講演など、10年の歩みを振り返り、楽しい交流の時となりました。
 当センターでは、引き続きたいとう心身会の支援を行っていききたいと思います。



在宅総合ケアセンター成城

区西南部地域リハ支援センター研修会

昨年12月14日、区西南部地域リハ支援センター主催の研修会を行いました。
 ケアマネジャーや介護職等72名を対象に「自立支援に向けたリハサービスの役割とその使い方」と題し急性期・訪問・通所・通所介護の現場でリハビリを行っているセラピスト4名を講師とし、各サービスの具体的なリハ内容について講演いただきました。また、事例を用いてどの時期にどのような内容のリハが必要となるのかイメージできるディスカッションを行いました。



年頭のご挨拶



医療法人社団 輝生会
 会長
 石川 誠

2019年の始めにあたり一言ご挨拶申し上げます。
 医療法人輝生会は、2002年に初台リハビリテーション病院、2003年に在宅総合ケアセンター元浅草、2004年に在宅総合ケアセンター成城、2007年に船橋市立リハビリテーション病院、2014年に船橋市リハビリセンターの運営を開始し、5拠点で事業展開する法人です。

事業内容を簡潔に表現すれば、「寝たきりにしない、寝かせきりにしない医療サービスの提供」です。具体的には、急性期の病院から回復期リハビリテーションを必要とする患者さまを可能な限り早く受け入れ、入院による集中的・総合的リハビリテーションを提供することにより、在宅復帰を可能とすること。さらに在宅復帰後は、通院・通所・訪問・短期入院などによるリハビリテーションを中心とした在宅ケアサービスを提供することにより、機能障害や日常生活活動が向上し、安心・安全な在宅生活が継続できるよう支援することを使命としています。この使命を全うするために、現在は1200名を超す職員数を擁する法人となりました。医師、薬剤師、看護師、介護福祉士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士、臨床検査技師、放射線技師、管理栄養士、栄養士、調理師、医療事務等の専門職が、職種を超えたチームアプローチを徹底することを根幹に据えた法人です。

これまで多くの方々を支えられ、なんとか事業を継続することができましたことを御礼申し上げますとともに、本年も更なるサービスの質の向上を目指して、なお一層の努力をいたす所存です。

本年も何卒よろしくお願い申し上げます。



医療法人社団 輝生会
 理事長
 水間 正澄

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

医療法人社団輝生会では昨年4月から石川誠会長のもと、大川リハケア局長、堅田事務局長とともに新しい体制での法人運営がスタートいたしました。

私たちは、法人設立以来の「輝生会の理念」を大切にしながら、患者さま・利用者さまがより良い暮らしをしてゆく支えとなるようにサービスを提供してゆく決意を新たにいたしました。

回復期リハビリテーション病棟では急性期病院からの患者さまをより早く受け入れ、豊富なスタッフによる質の高いリハビリテーション医療を提供し、より良い状態での在宅復帰を目指しております。在宅復帰をした後においても、通院、通所、訪問、短期入院などによる診療、看護やリハビリテーション治療など総合的なサービスを通じて、安心して在宅生活を続けることができるように支援をまいります。

また、地域包括ケア体制や地域共生社会を目指した地域のネットワーク作りなども重点事業としての取り組みを強化しているところであります。

法人のモットーである“One for all, all for one”の精神をもって、職員一丸となつてがんばってまいります。

今年も宜しくお願いいたします。



輝生会の 基本理念と方針	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「人間の尊厳」の保持 ■ 「主体性・自己決定権」の尊重 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「地域リハビリテーション」の推進 ■ 「ノーマライゼーション」の実現 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「情報」の開示
輝生会における 患者さまの権利	<ul style="list-style-type: none"> ■ 人権を尊重される権利 ■ 自分の診療の情報や記録を知り、求める権利 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 最善の医療を受ける権利 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自らの意思で選択・決定する権利 ■ プライバシーの保護を求める権利

医療法人社団 輝生会 5拠点からのご挨拶

初台 リハビリテーション病院



菅原英和 院長

明けましておめでとうございます。当院は今年で開院から17周年を迎えますが、今年も昨年と同様に回復期リハビリテーション病棟本来の役割(①急性期病院からの迅速な受け入れ ②十分な医学的管理で合併症の予防・治療 ③必要十分なリハビリテーションやケアの集中的な提供 ④最大限の機能回復・能力改善を図り ⑤地域と連携を取りながら可能な限り家庭復帰を支援)と、患者さまが役割や生きがいを持って地域で暮らしていけるよう退院後も支援する生活期リハビリテーションの実践に真摯に取り組み、最高のサービスが提供できるよう、職員一同頑張っていきたいと思っております。今年もよろしくお願いいたします。

船橋市立 リハビリテーション病院



梅津博道 院長

新年明けましておめでとうございます。船橋市立リハビリテーション病院は、昨年開院10周年を迎えました。施設、設備については、最近になり修理や交換を要する頻度が増えてきました。また職員は開院時を知らない世代が大半を占めるに至っています。今年、地域の方々が信頼を寄せ、自慢に思い、利用を勧めたくなる病院を目指して、現状に甘んじることなく、新たな取り組みを推進していく1年にしたいと考えております。今年も船橋市立リハビリテーション病院をどうぞよろしくお願いいたします。

船橋市 リハビリセンター



石原茂樹 センター長

明けましておめでとうございます。船橋市リハビリセンターでは、クリニック事業、訪問看護事業、リハビリ事業、地域リハビリ拠点事業の4事業を行い、地域に根差した在宅支援の拠点となるべく活動し、5回目の正月を迎えました。関わるスタッフは、日々輝生会の5つの理念を実現すべく、患者さまと向き合っています。特に「人間の尊厳の保持」は優先課題です。

昨今、対象となる利用者さまは高齢の方が多くなってきていますので、今年も「寝たきりにしない」ことをモットーとして、それぞれの事業に取り組んでいきます。

在宅総合ケアセンター 元浅草



齊木美鈴 センター長

センター長に就任し2年が経とうとしています。就任当初から地域に慕われるセンターを目指し、「生活期～終末期にある地域の方々に適切な医療・リハ・ケアを提供する」ことを目標に掲げて参りました。今年も同目標のもと、多職種が気持ちよく協働できる職場を作っていきたいと思っております。台東区では2018年、下谷・浅草両医師会の声かけで「たいとう地域包括ケア推進協議会」が発足し、地域包括ケアを進める上で大きく前進しました。地域リハ支援事業関連施設として、2019年はこの流れをさらに進め広げべく頑張る所存です。

在宅総合ケアセンター 成城



堀見洋継 センター長

在宅総合ケアセンター成城の職員は、リハビリテーションの精神を通じて、我々のセンターを訪れてくれる方々に安心と信頼と誇りをもたらすことを使命とします。そのためにも、知識・技術・接遇の向上に努め、顧客の心身機能や日常生活の改善や社会生活の広がりをもたらすよう努力します。このミッションを絶えず職員に問いかけ、各々が今何をすべきかを自律して考えられる集団に成長していくことと同時に、地域の方々に我々のやろうとしている事をより詳しく伝えていくことを今年の目標としたいと思います。

輝生会の行事食について

初台リハビリテーション病院、船橋市立リハビリテーション病院、在宅総合ケアセンター元浅草、在宅総合ケアセンター成城では、栄養部スタッフが常駐しており、毎月行事食を提供しています。毎日の生活・訓練場面でのリハビリテーションは、薬中心の治療と異なり、患者さまの意欲が大切となります。その意欲を高めるような関わりを日々ケアスタッフ、セラピストは心がけていますが、輝生会の食も、その意欲を高める一助として、ひいては患者さま・利用者さまの「心身回復」に役立ちたいという気持ちで、毎食作っております。その中で、季節ごとの様々な年中行事、季節の食材を取り上げた行事食は、栄養部が提供するレクリエーションの一つとして開設以来行っております。



写真① 朱色のお粥

写真② 2019年お節とお雑煮(右のお椀)

写真④ 細かな飾りをする栄養士



写真③ お節料理の盛り付け風景

写真⑤ 嚙下のお重

年中行事の中でも、お正月、春の七草、節分、ひなまつり、お月見などは、食と深く関わります。お正月のお赤飯では、お粥の方にも朱色のお粥を提供しました(写真①)。これは着色料を用いず、さざげを煮た汁を用いて色付けしています。お雑煮は、醤油ベースの関東風、角餅を焼いてだして柔らかくし、東京の小松菜を彩りに使いました(写真②)。たくさんの食材をお重に並べる際は、栄養部総出で盛り付けます(写真③)。また、輝生会の特徴は、飲み込み障害がある方も安心して食べられる形態の行事食があることです。こういう料理こそ、特に見た目食欲が沸くよう工夫しています(写真④・写真⑤)。年中行事は毎年繰り返すことを通じて、先祖への祈りを深める意義もありますが、輝生会では、「今年も変わらずお祝いできた」という喜びを患者さま、利用者さまと共に分かち合える場として、また料理を通じて故郷のこと・思い出話などを語りかけになればと思い、栄養部一丸となって準備しています。

文責/栄養部 桐谷裕美子